

I 平成22年度事業報告書

(平成22年4月1日から平成23年3月31日まで)

当財団は、彩の国さいたま芸術劇場、埼玉会館及び熊谷会館の指定管理者として、平成21年度から引き続き3年間の指定を受けている。平成22年度においては、平成23年3月11日に発生した東日本大震災とその後の計画停電の影響により、一部公演の中止や埼玉会館の利用を一時的に休止する事態が生じたものの、一年を通じて、数多くの優れた芸術文化作品を提供したほか、地域の方々と連携した取り組みを行い、地域の核としての役割を果たすことに努めた。

平成22年度は、演劇部門においては、「彩の国シェイクスピア・シリーズ」をはじめ、「さいたまゴールド・シアター」や「さいたまネクスト・シアター」による公演など、当財団ならではの事業を展開した。

舞踊部門においては、世界のダンスシーンをリードする、オハッド・ナハリン率いるバットシェバ舞踊団の新作や、人気カンパニー「コンドルズ」による埼玉スペシャル公演など、良質な舞台芸術作品に触れられる機会を提供した。

音楽部門においては、交響楽団による演奏会から、入場無料で開催する「光の庭プロムナード・コンサート」まで、多彩なラインナップを提供し、多種多様な音楽ニーズに応えた。

なお、平成22年度は、当財団が発信する高い芸術性を国内外に強く示した1年であった。蜷川幸雄芸術監督は、長年にわたる芸術文化の発展に貢献した功績により、平成22年5月に、米国の国立総合文化施設であるケネディ・センターから「芸術金賞」が授与され、さらに、11月には「文化勲章」を受章した。また、12月に上演した「さいたまネクスト・シアター」による「美しきものの伝説」は、平成23年2月に第18回読売演劇大賞優秀作品賞を受賞した。

1 事業の概要

(1) 一般会計

理事会を5回（5月、8月、10月、12月、3月）、評議員会を2回（10月、3月）開催するとともに、組織の適正な管理運営に努めた。

また、新公益法人制度改革を受けた、公益財団法人への移行手続きを進めた。

(2) 文化振興事業特別会計

ア 文化振興事業（80事業）

彩の国さいたま芸術劇場では、「創造する劇場」の理念のもと、世界トップレベルの芸術作品を創造、発信、提供した。

また、埼玉会館及び熊谷会館では、それぞれの施設の特性を生かし、地域の方々に親しみやすい作品を中心に事業を展開した。

(ア) 彩の国さいたま芸術劇場（64事業）

a 演劇部門

蜷川芸術監督演出の作品を軸に事業を展開した。「彩の国シェイクスピア・シリーズ」では、第23弾として喜劇「じゃじゃ馬ならし」を上演した。

また、55歳以上の団員による「さいたまゴールド・シアター」と、若手俳優による「さいたまネクスト・シアター」もそれぞれ公演を行い、個人史を生かした新たな演劇の可能性への挑戦や若手の育成など、公共劇場ならではの取り組みを深めた。特に「さいたまネクスト・シアター」の公演は読売演劇大賞優秀作品賞を受賞し、大きな成果を得た。

このほか、「彩の国ファミリーシアター」として、平成20年度に上演して好評を博した「音楽劇 ガラスの仮面」の続編を上演した。学校が長期休暇の時期に、親子で楽しめる上質の舞台作品を上演することで、若い世代が舞台の魅力に触れ、関心を持つきっかけをつくった。

事業名	実施時期	会場
彩の国シェイクスピア・シリーズ第22弾「ヘンリー六世」	4月	大ホール
「ムサシ」 ロンドン・NYバージョン	5月～6月	大ホール
オックスフォード大学演劇協会「じゃじゃ馬ならし」	8月	小ホール
彩の国ファミリーシアター 音楽劇「ガラスの仮面～二人の唄～」	8月	大ホール
さいたまゴールド・シアター 第4回公演「聖地」	9月	小ホール
彩の国シェイクスピア・シリーズ第23弾「じゃじゃ馬ならし」	10月	大ホール
第59回埼玉県高等学校演劇連盟中央発表会	11月	大ホール
維新派「台湾の、灰色の牛が背のびをしたとき」	12月	大ホール
さいたまネクスト・シアター 第2回公演「美しきものの伝説」	12月	大ホール

演劇集団育成強化	通年	大稽古場他
第46回関東高等学校演劇研究大会	1月	大ホール

b 舞踊部門

海外からは、埼玉でしか見られないバットシェバ舞踊団「MAX マックス」、初来日のホフェッシュ・シェクター「ポリティカル・マザー」や、ローザス「3Abschied ドライアップシート（3つの別れ）」を招聘した。

一方、国内からは、継続的な取組として、独自の作風でダンスの裾野を広げるコンドルズの新作「ロングバケーション」を上演したほか、日本の次世代を担うダンサー、若手振付家2組による「dance today 2010」を引き続き当劇場で制作・上演した。

また、バットシェバ舞踊団及び「ドライアップシート」公演にあわせてカンパニーの振付家などによるワークショップを実施し、若いダンサー達が、世界的なダンスカンパニーの振付家等による指導に触れる機会を提供した。

事業名	実施時期	会場
バットシェバ舞踊団「MAX マックス」	4月	大ホール
オハッド・ナハリン GAGA ワークショップ	4,10月	大練習室
ホフェッシュ・シェクター「ポリティカル・マザー」	6月	大ホール
dance today 2010	9月	小ホール
ローザス「3Abschied ドライアップシート」	11月	大ホール
ダンス・ワークショップ	11月	大ホール他
コンドルズ 埼玉公演 2011 新作「ロングバケーション」	1月	大ホール
日本昔ばなしのダンス 地方公演	11月	都内

c 音楽部門

世界屈指のアーティストや日本を代表するソリストによるリサイタル、室内楽や古楽器アンサンブルなど多彩なジャンルの公演を提供した。

また、日本の若手ピアニストの中で注目を集めている小菅優を中心とした3年間のシリーズ「小菅 優の現在（いま）」については、若手実力派ソリストとのアンサンブルにより第2回目公演を開催

したほか、若手の期待の星たちによる「ピアノ・エトワール・シリーズ」を引き続き実施し、若手の育成に資した。

一方、誰もが気軽に音楽に触れられる機会を広く提供するため、情報プラザにおいてポジティブ・オルガンを活用した無料のミニ・コンサートを行なった。また、オルガンによる音楽の普及啓発を主目的として、当劇場が所有する楽器の弾き込みを兼ねた「みんなのオルガン講座」も継続して実施した。

さらに、若い世代に芸術体験の機会を提供する場として、小・中学校への出張コンサート「MEET THE MUSIC～アーティストが学校にやってくる！」を、県内公立文化施設との共催及び財団単独主催事業として実施した。

事業名	実施時期	会場
バッハ・コレギウム・ジャパン バッハ《マタイ受難曲》	4月	音楽ホール
小菅 優の現在 Vol.2 アンサンブルの愉しみ	6月	音楽ホール
中村絃子ピアノ・リサイタル～デビュー50周年記念～	6月	音楽ホール
SOUND SPACE EXPERIMENT Steel Drum Works	6月	小ホール
ピアノ・エトワール・シリーズ (Vol.13～Vol.15)	7,12,1月	音楽ホール
小曾根 真の現在 Vol.1 ソロ×デュオ with 児玉 桃	9月	音楽ホール
エマニュエル・パユ&クリスティアン・リヴェ	10月	音楽ホール
庄司紗矢香&ジャンルカ・カシオーリ	10月	音楽ホール
光の庭プロムナード・コンサート	通年	情報プラザ
みんなのオルガン講座	通年	練習室他
MEET THE MUSIC～アーティストが学校にやってくる！	通年	県内小・中学校
MEET THE MUSIC～アーティストが学校にやってくる！(共催)	通年	秩父郡横瀬町

d その他

好評の「彩の国さいたま寄席」（年4回）を引き続き実施した。

また、NPOとの協働事業として「彩の国シネマスタジオ」を実施したほか、埼玉県が行う「青少年夢のかけはし事業」との連携事業として「劇場体験ツアー」を実施した。

さらに、当劇場の認知度を高め、舞台芸術への関心を広げていただくため、蜷川芸術監督と各界のアーティストとの公開トーク・セッション「NINAGAWA千の目」を引き続き実施した。

このほか、地域との連携を深めるため、県内の高校生を対象とした舞台技術の研修会を開催したほか、大学のインターンシップを積極的に受け入れた。

事業名	実施時期	会場
彩の国さいたま寄席	4月~1月	小ホール
彩の国シネマスタジオ	4月~1月	映像ホール
劇場体験ツアー	1月	大ホール
蜷川幸雄公開対談シリーズ「NINAGAWA 千の目」	9月	大ホール
埼玉県立芸術総合高等学校舞台技術講習会	8月	小ホール
大学生インターンシップ	通年	芸術劇場

(イ) 埼玉会館（11事業）

埼玉会館では、大ホールの特性を活かしたフルオーケストラ公演として毎年好評を博しているNHK交響楽団及び新日本フィルハーモニー交響楽団の公演を引き続き実施した。

また、新春恒例のイベントとして定着しているニューイヤー・コンサートや、大人から子どもまで幅広い年齢層を対象にしたファミリー・コンサート、平日昼間のランチタイム・コンサートを開催し、足を運びやすい鑑賞機会を広く提供するとともに、聴衆層の開拓を図った。これらの公演では、地元商店街とのタイアップなど、地域との連携を図りながら事業を展開した。

一方、劇場を中心に実施している「彩の国シネマスタジオ」について、劇場の改修工事期間は埼玉会館で代替開催した。

事業名	実施時期	会場
新日本フィルハーモニー交響楽団	7月	大ホール
NHK交響楽団	10月	大ホール
埼玉会館ニューイヤー・コンサート	1月	大ホール
埼玉会館ランチタイム・コンサート	5月~2月	大ホール
埼玉会館ファミリー・コンサート 宮川彬良&アンサンブル・ベガ	5月	大ホール
彩の国シネマスタジオ	9, 2, 3月	小ホール

(ウ) 熊谷会館（5事業）

熊谷地区の夏の恒例公演として定着している「松竹大歌舞伎」を実施した。

また、毎年、埼玉会館と熊谷会館で交互に開催して好評を博している独自企画「夏休みオーケストラランド！」を実施し、音楽の様々な魅力を家族揃って感じていただくだけでなく、参加コーナーを通じて受身に留まらない音楽体験を家族で共有していただける機会を提供したほか、舞台芸術に関心を広げていただくため、蜷川幸雄芸術監督と各界のアーティストとの公開トーク・セッション「NINAGAWA 千の目」を実施した。

さらに、好評のバレエ・セミナーを引き続き行うなど、県北地域においても子供たちが本物の芸術に触れることのできる機会を提供した。

事業名	実施時期	会場
松竹大歌舞伎	7月	ホール
熊谷会館バレエ・セミナー	8月	ホール
熊谷会館ファミリー・クラシック 夏休みオーケストラランド！	8月	ホール
彩の国シネマスタジオ	12月	ホール
蜷川幸雄公開対談シリーズ「NINAGAWA 千の目」	5月	ホール

イ 広報に関する事業

(ア) 企画展示事業

彩の国さいたま芸術劇場内の情報プラザ、ギャラリー等を活用し、財団主催事業の紹介や舞台芸術への関心を高めるための企画展示を開催した。

a 「NINAGAWA×SHAKESPEARE 1974-2009」

『ヘンリー六世』の上演にあわせ、舞台写真、ポスター、プログラムなどを展示し、これまでの蜷川幸雄演出のシェイクスピア作品を展示した。

b 「はじめての人も、二度目のひとも 音楽劇ガラスの仮面」

平成 20 年度に上演した第一作をご覧になった方もそうでない方も、続編の本作を楽しんでいただけるよう、第一作目の舞台写真を中心に、これまでのストーリー、キャラクター紹介、人物相関図など、豊富なビジュアルとともに展示した。

c 「シェイクスピア・シリーズ展」

彩の国シェイクスピア・シリーズ第 1 弾「ロミオとジュリエット」(1998 年)から第 22 弾「ヘンリー六世」(2010 年)までの舞台写真をパネル展示した。

d 「維新派〈彼〉と旅をする 20 世紀三部作#3『台湾の、灰色の牛が背のびをしたとき』犬島公演 50 日間の記録 写真展」

瀬戸内海に浮かぶ犬島で初演を迎えた本作について、島への上陸から舞台の設営、連日の稽古、そして本番までのすべてを“目撃”してきた写真家・井上嘉和氏の写真から犬島公演の様子を展示した。

e 「演劇ポスター・フライヤーから「時代の空気」を読む～1968 年を中心に～」

『美しきものの伝説』が生まれた 1968 年当時の演劇ポスター、フライヤー及び『美しきものの伝説』の作者である宮本研作品のポスター・フライヤーを展示した。

(イ) 財団情報誌「埼玉アーツシアター通信」の発行

財団主催事業などを紹介した情報誌「埼玉アーツシアター通信」を発行した。

公演の見どころや蜷川芸術監督の公開トーク・セッション(NINAGAWA 千の目)の内容を掲載するなど、読みやすく、かつ充実した内容の情報誌を目指し、編集を行った。

a 発行回数、部数 6 回 各 13,000 部発行

b 配布先 財団メンバーズ、サポーター会員、マスコミ、プレイガイド、県内文化施設など

(ウ) メンバーズ事業

財団の活動を支援する個人の会員組織「メンバーズ」への加入促進に努めた。「メンバーズ」の会員には、財団情報誌を送付するとともに、財団主催事業のチケットについて優先販売と割引サービスを行うことにより、チケットの販売促進を図った。

会員数 5,739 人（平成 23 年 3 月末現在）

(エ) サポーター会員制度の運営

財団の活動に対し財政面で支援いただく法人等の会員組織「サポーター会員」への加入促進に努めた。「じゃじゃ馬馴らし」上演時にはサポーター鑑賞会及び懇親会を実施した。

サポーター会員数 76 社（者）（平成 23 年 3 月末現在）

(3) 施設管理事業特別会計

利用者が自ら行う芸術文化活動の拠点施設として、彩の国さいたま芸術劇場、埼玉会館及び熊谷会館の 3 館について、多様なニーズに対応するとともに、各施設の持つ機能を効果的に活用しながら施設貸与を行った。

また、施設予約管理システムの更新に向けた準備作業や新たに開始するインターネット施設予約サービスの導入準備作業を 3 館共同で実施した。

ア 彩の国さいたま芸術劇場施設管理事業

彩の国さいたま芸術劇場の施設の適正な管理を行うとともに、ホール、けいこ場、練習室等が十分に活用されるよう利用者アンケートの意見等を踏まえ、利用者サービスの充実に努めた。

施設利用については、利用の促進を図るため、抽選で希望日から外れた利用希望者に対する代替日の斡旋や、リピーターへのキャンセル情報の提供などに努めるとともに、近隣小学校児童などの劇場見学を積極的に受け入れた。

舞台芸術資料室については、公演に関係する書籍やビデオ等を集めた企画コーナーの設置や調査研究の相談等により、利用の促進を図った。

また、平成23年2月から開始された改修工事が円滑に行われるよう、県や施工業者等と緊密な連絡調整を行った。

総来場者数 302,367人

施設の利用状況

施設等の名称	利用可能日数 (日)	利用日数 (日)	利用率 (%)
ホール	920	666	72.4
けいこ場・練習室	3,130	3,026	96.7
計	4,050	3,692	91.2

イ 埼玉会館施設管理事業

平成23年3月11日に発生した東日本大震災と、その後の計画停電による影響により、会館の利用を一時的に休止する事態が生じたが、年間を通じて会館施設の適正な管理を行うとともに、ホール、会議室等が十分に活用されるよう利用者サービスの充実に努めた。また、利用者アンケートを引き続き実施し、利用者の要望に対応した。

大ホールのプロジェクター装置設置工事により、映画等のデジタル映像や講演会等におけるパソコン映像の投影が可能になった。

総来場者数 678,287人

施設の利用状況

施設等の名称	利用可能日数 (日)	利用日数 (日)	利用率 (%)
ホール	617	534	86.5
会議室	5,617	4,597	81.8
展示室	971	742	76.4
計	7,205	5,873	81.5

ウ 熊谷会館施設管理事業

熊谷会館の施設を適正に管理するとともに、ホール、会議室、展示室が十分に活用されるよう利用者サービスの充実に努めた。

平成22年度は、屋外の施設案内サインを、より視認性の高いものに改修したほか、ホール階段塗装の塗り替えや全ての洋式トイレをウォッシュレット化するなど、利用者のサービス向上を図った。

また、エントランス及び事務室照明の省エネルギー化など環境負荷の軽減や、PCB混入の変圧器改修、楽屋用監視カメラ及び駐車場用監視カメラを増設改修して、安心安全の充実に努めた。

このほか、会議室や給湯室等の備品について定期的に点検を行い、快適にご利用いただけるよう努めるとともに、利用者アンケートを随時実施し、利用者の要望に対応した。

なお、興行者にホール利用を促すダイレクトメールを発送したことで、利用問い合わせが増加したため、利用に繋げるよう案内の発送を継続して行うこととしている。

総来場者数 115,521人

施設の利用状況

施設等の名称	利用可能日数 (日)	利用日数 (日)	利用率 (%)
ホール	255	144	56.5
会議室	897	750	83.6
展示室	283	210	74.2
計	1,435	1,104	76.9

2 役職員に関する事項

(1) 役員数 (平成23年3月31日現在)

(単位：人)

	常 勤	非常勤	計	備 考
理 事 長	—	1	1	
専務理事	1	—	1	県派遣 1
理 事	—	7	7	
監 事	—	2	2	
計	1	10	11	県派遣 1

(2) 職員数 (平成23年3月31日現在)

(単位：人)

	常 勤	非常勤	計	備 考
部 長	2	—	2	県派遣 1
館 長	2	—	2	県派遣 2
グループリーダー・課長	4	—	4	県派遣 3
主 査	15	—	15	県派遣 4
主 任	15	—	15	
主 事	10	—	10	
専 門 員	1	1	2	
芸術監督	—	1	1	
プロデューサー	—	1	1	
参 与	—	1	1	
その他非常勤職員	—	8	8	
計	49	12	61	県派遣 10